

進化経済学会
ニューズレター No.23
Nov. 2007

進化経済学会事務局
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19
国際文献印刷社内
T:03-5389-6493 E:evoeco-post@bunken.co.jp



目次

進化経済学会サマースクール・オータムカンファレンス開催報告
南東欧の経済学と地域経済統合
理事会報告
研究会案内
書籍案内
名簿訂正／新規入会者名簿
前年度分の収支決算報告
編集後記

サマースクール・オータムカンファレンス開催報告

2007年9月21日、22日に鹿児島サンロイヤルホテル・鹿児島国際大学で進化経済学会恒例のサマースクール・オータムカンファレンスが行われた。

サマースクール(会場・サンロイヤルホテル)では第1部において進化経済学の教科書を軸とした意見交換が行われた。これは昨年来準備進められている、進化経済学の教科書『進化経済学 赤本・緑本』(仮題)の内容や狙いについて、執筆予定者が現段階での進捗状況を報告することを企図して行われた。特に西部忠会員・江頭進会員・橋本敬会員・吉田雅明会員らの報告を基に、教科書第1巻部分の検討がなされた。特に経済現象の進化を複製子と相互作用子の2点からとらえる見方について議論が交わされた。

第2部では、参加者の中で報告を希望する者が「地域」を軸とした(とはいえ自由な)短い報告を行った。通常の学会では聴けない報告(東京工業大学でのシンドラース社エレベータ事件など)が多く、興味深いものだった。

夜の懇親会では、関東や関西では滅多に見かけない珠玉の焼酎が並び、実行委員会の並々ならぬ意欲が伝わってきた。春の大会でも、ここの報告はもちろん、懇親会の酒食にも注目である。

2日目は鹿児島国際大学に場所を移し、オータムカンファレンスが開催された。報告の4氏(稲垣京輔氏(横浜市立大学)、深見 聡氏(鹿児島国際大学)、西部 忠氏(北海道大学)、塩沢由典氏(京都大学))が「地域」を軸に報告を行った。稲垣はボローニャの包装機械メーカーに見られる起業家間ネットワークと創業の連鎖について、綿密な実地調査に基づいて報告した。深見は鹿児島市のある地域の「まちづくり」を取り上げ、地域の人々のつながりが強くなるという到達点と、それでもやはり経済的な潤いにはつながらないという限界について報告を行った。西部は自身が深く関わった経済調査について言及し、地域の状態

を様々な角度からチェックする「地域ドック」を提唱した。塩沢は地域の活性化には自分たちで何かを始めることが大事であることを主張し、関西、特に大阪を事例にとって自発的なまちづくりについて紹介した。

また、最後には諏訪地域と会場をSkype!でつないで諏訪地域の地域集積の現状、進化経済学グループなどとの産学連携研究の概要が報告された。



南東欧の経済学と地域経済統合

八木紀一郎

9月下旬のオータム・コンファレンスのすぐあと、ベオグラードとソフィアで開催された国際コンファレンスに参加した。それぞれセルビアとブルガリアの首都であるこの2都市には、2004年の3月にも、EU周辺地域における地域経済協力の調査のために訪れたことがある。そのときに知り合った人たちが、ベオグラード大学経済学部の創立70周年記念国際コンファレンスにゲスト・スピーカーとして招待してくれたので、ついでにソフィアにも足を伸ばしたのである。

9月26-29日に開催されたベオグラードのコンファレンスは Contemporary Challenges of Theory and Practice in Economics というほとんど制約のないテーマで、全体セッション以外に、並行セッション (The Challenges of Globalization and Transition; Management and Marketing under Globalization; Quantitative Economics and Finance; The Challenges of the International Economic Integration; Economic Policy and the Development of Serbia; Accounting and Business Finance and Financial Market Development) が5つもあった。研究報告の総数は150を越していたが、そのほとんどが配布されたCD-ROMに収録されていた。(次のページからダウンロードもできる: <http://konferencija.kof.g.ac.yu/papers.htm>) 私は "Governance and Institutions: Transition and Economic Integration as seen from the Viewpoint of Evolutionary Institutional Economics" というタイトルで話したが、なぜかゲスト・スピーカー(私を含め4人)のペーパーは収録されていなかったもので、あとで数人の参加者から原稿の送付を依頼された。

並行セッションで私が出席したのは「グローバル化と移行」のセッションだけだが、純理論的な報告は少なく、労働市場と社会保障制度、経済統合と所得収斂

問題、金融のグローバル化と金融再編、財政と政治的マクロ経済学、というように社会的・政治的関心が優れた報告が多かった。ゲスト・スピーカーの D. M. Nuti がとりあげたのも「欧州社会モデル」で、EU拡大に乗じたネオ・リベラリズムによって水割りされてしまったが「欧州社会モデル」を維持・発展させる以外に道はないと論じた。反論が出るかと思っただけでなかった。経済統合やグローバル化に反対する議論はなかったが、社会的欧州 Social Europe で行こうというのがベオグラード大学の経済学者の大方の考えなのであろう。

旧ユーゴスラヴィアは悲劇的な民族対立とともに解体したが、このコンファレンスにはクロアチアやボスニア=ヘルツェゴヴィナ、マケドニア、コソボからの参加者もあり、学術レベルでのネットワークが再構築されはじめていることを知ることができた。最終日には、Springer から Transition Studies Review という雑誌を刊行している中東欧大学ネットワーク (CEEUN) の会合にオブザーバー参加させてもらったが、ネットワークの活動をNIS諸国や東アジアの移行経済諸国に拡げること課題と考えているようだった。

そのあとソフィアで参加したコンファレンス(10月5-7日、ソフィア大学経済学部主催)は、ベオグラードのそれに比べると小規模だったし、内容も期待はずれだった。テーマは Policy of Economic and Social Development Towards a Knowledge Based Society in Europe だったが、報告のスクリーニングがなされておらず玉石混交であった。ペーパーも配布されず、無断欠席の報告者が多かったので呆れてしまった。それでも、レベルの高い報告もあったし、またコンファレンスの前後に優れた研究者に出会えたから、ソフィア訪問のバランスシートはプラスである。

今回の旅行の副次的な目的は南東欧地域における越境地域協力(CBC: Cross Border Cooperation)の進展状況を知ることであった。3年前のバルカン旅行の際に、セルビア、FYマケドニア、ブルガリアの3国にまたがる三角地域協力の活動を知り、そのホームページをしばしば閲覧して

いた。しかし、2005年にファンドをもつEuroBalkansに昇格して以降の新規記事がないまま、いつの間にか事務所を、セルビア南部の中心都市ニッシュからベオグラードに移転していた。それでベオグラードで事務所長に会って事情を尋ねてみた。彼の説明によれば、ニッシュの市政が民族主義者によって掌握されたので現地事務所を引き上げたが、地域協力の枠組み自体は存在しているのでホームページは残しているとのことであった。現在は排外的でない自治体の行政関係者の研修やICTなどを用いたネットワークの構築に力を注いでいる。ニッシュはコソボの隣接地域なのでセルビア民族主義が勢力を得たのであろう。（といっても、ニッシュに1泊して街を歩いてみたが、過激な落書きやポスターなどは見当たらなかった。）

ローカルな越境協力については、ソフィアであったブルガリアの地域経済研究者もその停滞を認め、越境地域協力を主導しているのはEUの補助金などであって、困難を克服する内発的な動機に欠けることが多いとこぼしていた。ソフィアのコンファレンスの報告の一つに、地方の村落にICTセンターを整備するNPO活動についてのものがあつたが、越境地域協力のサポーターの関心がローカルな地域協力よりもICTの普及やネットワークの形成に関心が移っているのかもしれない。

ニッシュから鉄道で国境を越えてソフィアに抜けたが、鉄道は単線でディーゼル、並行して走る道路には中央分離帯がなかった。これが隣り合わせた2国を結ぶ交通幹線（欧州回廊TENの一つ）であるとは信じられないほどお粗末だった。国境のゲートの両側にそれぞれ100台近くのトラックが列をつくって通過手続きを待っていたが、このくらいの貨物であれば数千トンの貨物船1台で運べるであろう。運輸・物流に関するかぎり、欧州よりも東アジアの方が密接であるかもしれない。セルビアとブルガリアを直接結ぶ商業航空路線も存在しない。ブルガリアはいまやEUの加盟国になっていて、セルビアも政治的条件を整えばEUへの加盟が約束されている。しかし、隣国どうしの協力への熱意は感じられず、経済統合のための交通インフラはなお脆弱なままである。前途多難というべきであろう。

望の意思が伝えられた K 氏について、本人自筆の申請書類が整うことを条件にして承認した。

4. 平成 18 年度収支決算報告および貸借対照表、財産目録が示され、服部茂幸、安孫子誠男の両監査委員からそれらが相違ないことを確認した旨の監査報告があった。

決算の摘要は、以下のようである。

ー収入は、当期収入予算案 4,455,000 円を見込んでいたが、寄付金（ハンドブック印税）200,000 円、および書籍販売費 83,080 円などによって、当期収入合計は 4,718,860 円になった。

ー当期支出額は予備費を除いて 5,095,000 円を予算としていたが、決算額はそれより少ない 4,726,936 円となった。それは、大会報告集の CD ロム化により、大会費が 341,545 円節減されたこと、交通費の節減などによる。他方で、英文誌編集刊行費は 226,829 円超過した。他にも、通信費と業務委託費が予算をオーバーした。ー予算では、前年度からの繰越金を 3,500,000 円と見込んでいたが、実際には 2,722,685 円であった。平成 18 年度から同 19 年度への繰越金は、ほぼ同額の 2,714,609 円になる。

5. 大会運営委員会から、オータムコンファレンスと関連行事について、および、第 12 回大会の報告申し込み状況について説明があり了承された。とくに「地域」に焦点をあてるとのことで、オータムコンファレンスでも鹿児島国際大学の地域総合研究所と諏訪の産業集積センターとを SKYPE でつなげて討論する。

6. 第 13 回大会の開催地について意見・情報交換がおこなわれた。

7. 平成 20 年度におこなわれる第 V 期の役員選挙について、会長が説明した。前回の選挙は秋におこなったが、選挙を実施する選挙管理委員と選挙の実施法は 2008 年 3 月の会員総会で決定しなければならない。副会長候補や推薦理事候補については、来春

第 IV 期第 4 回理事会報告

(氏名を一部消しています)

1. 進化経済学会第 IV 期第 3 回理事会は、2007 年 9 月 22 日の正午から鹿児島国際大学において開催された。出席者は、会長、副会長のほか理事 12 名、両監査委員、計 16 名が出席した。委任状提出理事は 10 名であった。

2. まず会員状況報告がおこなわれた。前理事会以降の退会申し出が 7 会員からあり、年度末退会申し出が 3 会員からあった。外部からご協力いただくことになった理事経験者も、事務上はまだ名簿には含まれている。また、会則第 7 条が適用される可能性のある会員のリストが示され、理事に連絡・意思確認の要請がなされた。

なお、次議題の入会申請者 5 名を入会させると、会員は 494 名（休会 5 名を含む）になる。内訳は、個人会員 398 名（休会 2 名）、学生会員 93（休会 3 名を含む）、賛助会員 1 団体、招待会員 2 名である。

3. 入会希望者の資格審査をおこなって、松山直樹（北海道大学・経済学研究科大学院生）、相田慎一（専修大学北海道短期大学）、熊川剛久（京都大学・経済学研究科大学院生）、出口竜也（和歌山大学経済学部観光学科）の 4 名について承認、入会希

の理事会ではなくその次の秋の理事会で決定することもできる。副会長や推薦理事の選出法、また理事会構成の代表性やジェネレーション交代も含め、これから来春にかけて常任理事会・理事会で検討しておかなければならない。

8. 有賀編集委員長から、国際英文誌 *Evolutionary and Institutional Economics Review* の刊行状況とその反響について説明があった。10月はじめには会員に配布される第4巻第1号は *The Evolution of Institutions and Organizations* を特集し、200ページをこす内容豊富なものとなった。またPRのためのちらしの作成も完成したので、購読促進にせいぜい活用願いたい。

塩沢『ハンドブック』編集委員長から、『ハンドブック』の残部がなお200部あるとのことで、販売促進によりこれを減らして第2版に着手できるようにしたいとの協力要請があった。

9. 北海道東北部会設立の承認。西部理事より、本年5月19日に設立会議を開催し、部会名称を「進化経済学会北海道東北部会」としたことが報告され、既定方針どおりに承認された。会長のもとに提出された書面では、部会の構成員は6月22日現在で23名、役員（任期2年）は代表：西部忠、会計：江頭進、運営委員：吉井哲、山本堅一、郵便局に部会名義で口座（1901034207261）が開設された。

10. 観光学研究部会設立の承認。井出明会員（首都大学東京）から、「設立趣意書」に21名の参加者名簿を添えて、「観光学研究部会」の設立承認の議題が出され、その設立経過、目的、方法などについて討論のうえ、承認された。代表（幹事）は、井出明会員、事務局担当は井上泰日子会員（日本航空）である。

11. 有賀理事から、2008年3月13-15日に中央大学で開催する3rd International Nonlinear Science Conference (INSC2008)への協賛の依頼があり承認された。また、植村・磯谷の両理事から、現在日本に滞在中のレギュラシオン学派のSebastien eChevalier (EHES) が企画しているInternational Workshop "Heterogeneity of firms: Performance and Organization"、26-27 June 2008, Tokyoへの協力依頼があり、これについても承認された。

12. 会長から、学術会議の協力団体としての承認登録の申請を8月におこなった。決定通知は3-4ヶ月後になるという回答があったと説明があった。

(文責：八木紀一郎)

研究会案内

専修大学社会科学研究所主催 非線形問題研究会

進化経済学における実験手法についてー過去・現在・未来(?)ー

近年、経済実験は学派を問わず活用されており、進化経済学にあってもボウルズ、ギンティスといった人々が経済実験の成果に依拠しつつ、経済システムの進化を取り扱っている。本報告では、経済実験の視点から、いわゆる主流派経済学の近年の流れを概観した上で、経済実験が進化経済学にどのような果実をもたらしてきたか、もたらそうとしているのか、もたらさうのかを論じる。

講師：小川一仁 氏 (大阪産業大学)

日時：12月8日(土) 14:00-17:30

場所：専修大学神田校舎 7号館(大学院棟)7階 773教室

http://www.senshu-u.ac.jp/univguide/campus_info/kanda_campus/index.html
地下鉄九段下もしくは神保町から徒歩五分以内です。お問い合わせは、吉田 yoshida@isc.senshu-u.ac.jp まで。

現代日本の経済制度研究部会

今回は気鋭の若手院生による「労働市場の実証分析」が報告テーマとなっております。皆様方におかれましては諸事にご多忙のことと存じますが、奮ってご参加くださいますようよろしくお願い申し上げます。

日時 12月 8日(土)
京都大学 経済学部 総合研究棟 1階101演習室 13時~17時まで

報告テーマ

第一報告「派遣労働の現状と課題ー資本系派遣会社の事例を中心にー」

水野 有香 氏 (大阪市立大学大学院 経済学研究科)

第二報告「90年代末の日本と韓国における労働市場政策の変化ー労働者派遣法の改正過程を中心にー」

安 周永 氏 (京都大学大学院 法学研究科)

なお、当日総合研究棟の入り口が施錠されている可能性がありますので、お手数ですが遅れてこられる方は中原の携帯電話(090-8366-1597)にご連絡ください。開錠に伺います。

経済物理学研究会のお知らせ

京都大学基礎物理学研究所 2007年度後期研究会

共催：京都大学グローバルCOEプログラム「知識循環社会のための情報学教育研究拠点」

表題： 経済物理学 IIIー社会・経済への物理学的アプローチーEconophysics IIIーPhysical Approach to Social and Economic Phenomenaー

言語： 日本語

開催期日：2007年12月24日(月) 10時00分 - 12月25日(火) 16時00分

場所： 京都大学百周年時計台記念館

申込締切日：2007年11月16日(金)

URL:http://www.econophysics.jp/yitp07/

学生については旅費・宿泊費支援の可能性
がありますので、奮ってご参加下さい。

要旨：

「経済物理学」との言葉が登場して、早10年以上が経過しました。しかし、依然として経済物理学は学問として確固たる礎を築いたわけではなく、まだまだ海のものとな

るか、山のものとなるか、まだまだ状況は流動的であるとも言えます。このように挑戦的フェーズにある経済物理学は基礎研究会のテーマとしてふさわしいと考えます。とは言っても経済物理学の学問的進歩は急速です。したがって、本研究会には全国から多数の研究者が参集し、様々な重要な研究成果が報告されると期待されます。

「経済物理学」が生まれた当初、物理学者による経済現象の研究を批判する経済学者もいました。経済物理学の論文の著者が長年蓄積された経済学の研究成果に疎く、すでに知られていた概念や結果を新しく発見したと主張する場合があったからです。経済物理学の健全な発展には、物理学者と経済学者との継続的な交流が不可欠です。今回も前の2回と同様、経済学者や実務家を招聘し、経済学の最新の研究成果について話題提供していただき、活発な交流を進める予定です。

<<http://www.econophysics.jp/yitp07/program.html>>

ここでカバーする具体的な研究テーマを大雑把にあげると

- * 株式市場や外国為替市場における価格形成・予測
- * 個人や企業の所得・サイズ分布や成長
- * 企業や金融のなす複雑ネットワーク
- * 非平衡系、非定常系としての経済現象
- * 企業の生産性、イノベーション、連鎖倒産
- * 消費行動、マーケティング

となりますが、これらに分類しきれない話題もあります。なお、本研究会は2003年7月と2005年12月にそれぞれ行われた「経済物理学 I」「経済物理学 II」に続く第3回目になります。

招待講演者：

副島豊（日本銀行金融研究所） コール市場の資金取引ネットワーク

高安美佐子（東京工業大学大学院総合理工学研究科）市場価格のポテンシャル理論とその実践的応用

玉田俊平太（関西学院大） 特許データから何が見えるか？日本特許データベース構築とその分析結果について

原田靖博（（株）格付投資情報センター） T B A

若林直樹（京都大学大学院経済学研究科）企業の組織能力を発達させるソーシャル・キャピタル組織理論における企業のネットワーク現象分析と課題

世話人：

青山 秀明（京都大学）

家富 洋（新潟大学）

池田 裕一（日立総合計画研究所）

石川 温（金沢学院大学）

佐藤 彰洋（京都大学）

相馬 亘（NiCT/ATR）

田中 美栄子（鳥取大学）

藤原 義久（NiCT/ATR）

増川 純一（福山平成大学）

The 4th International Conference on Natural Computation (ICNC'08) The 5th International Conference on Fuzzy Systems and Knowledge Discovery (FSKD'08)のお知らせ

開催日時：25-27 August 2008, Jinan, China

応募締め切り：25 March 2008 ***

<http://www.icnc-fskd2008.sdu.edu.cn>

Call for Papers & Invited Session Proposals

The 4th International Conference on Natural Computation (ICNC'08) and the 5th International Conference on Fuzzy Systems and Knowledge Discovery (FSKD'08) will be jointly held in Jinan, China. Jinan is the capital of Shandong Province, which is known for the home of Confucius, the Taishan Mountain, and the Baotu Spring. ICNC'08-FSKD'08 aims to provide an international forum for scientists and researchers to present the state of the art of intelligent

methods inspired from nature, including biological, ecological, and physical systems, with applications to data mining, manufacturing, design, and more. It is an exciting and emerging interdisciplinary area in which a wide range of techniques and methods are being studied for dealing with large, complex, and dynamic problems. Previously, the joint conferences in 2005, 2006 and 2007 each attracted over 3000 submissions from more than 30 countries. All accepted papers will appear in conference proceedings published by the IEEE and will be indexed by both EI (Compendex) and ISTP. Furthermore, extended versions of selected papers will be published in a special issue of Soft Computing: An International Journal (SCI indexed).

To promote international participation of researchers from outside the country/region where the conference is held (i.e., China), foreign experts are encouraged to propose invited sessions. Each invited session should have at least 4 papers. Invited session organizers will solicit submissions, conduct reviews and recommend accept/reject decisions on the submitted papers. All invited session organizers will be acknowledged in the conference proceedings.

For more information, visit the conference web page or email the secretariat at nc2008@sdu.edu.cn

Join us at this major event in scenic Jinan !!!

新刊案内

川越 敏司著『実験経済学』
ISBN978-4-13-040234-7、発売日:2007年10月下旬、判型:A5、288頁税込3990円/本体3800円

<http://www.utp.or.jp/bd/978-4-13-040234-7.html>

内容紹介

実験経済学の方法論的基礎を明らかにし、実験経済学者の思考の道具箱を詳細に記述する。実験によって明らかになってきたゲーム理論の問題点を解消するために発展してきた、不平等回避や互恵性といった社会的選好、学習理論などの限定合理性、非期待効用理論などに基づく行動ゲーム理論の全貌を明らかにし、実験経済学の今後の課題と将来について述べる、本邦初の本格的テキスト。

主要目次

- 第1章 実験経済学とは何か
- 第2章 実験経済学の原理と方法
 - はじめに
 - 価値誘発理論
 - 選好統制の諸手法
 - その他の実験統制手法
- 第3章 ゲーム理論実験
 - ゲーム理論の基礎概念
 - 支配戦略
 - 支配された戦略の逐次消去
 - 純戦略ナッシュ均衡
 - 混合戦略
 - サブゲーム完全均衡
 - ベイジアン・ナッシュ均衡
 - 完全ベイジアン均衡
 - 実験研究から見たゲーム理論の問題点
- 第4章 行動ゲーム理論
 - 利他的選好の理論
 - 限定合理性の理論
 - 合理性の階層モデル
 - 非期待効用理論
- 第5章 実験経済学の課題と将来
 - 実験経済学の課題
 - 実験経済学の将来

リチャード・R・ネルソン/シドニー・G・ウインター著 後藤晃・角南篤・田中辰雄訳
『経済変動の進化理論』慶応義塾大学出版会 xix+512 ページ、定価(本体5600円+税)

※Nelson/Winter, An Evolutionary Theory of Economic Change, 1982 の邦訳書です。

新規入会者

会員名	フリガナ	郵便番号	送付先住所	所属先	推薦会員
松山 直樹	Matsuyama Naoki	001-0020	札幌市北区北 20 条西 6 丁目 2 番 36-102	北海道大学大学院経済学研究科	吉井哲先生、西部忠先生
相田 慎一	Aida Shinnichi	004-0003	札幌市厚別区厚別東 3 条 7 丁目 4-3	専修大学北海道短期大学	西部忠先生、吉井哲先生
熊川 剛久	Kumakawa Takehisa	606-8202	京都市左京区田中大堰町 81-5-106	京都大学大学院経済学研究科	渡部幹先生、吉田和男先生
出口 竜也	Deguchi Tatsuya	675-0066	加古川市加古川町寺家町 321-10	和歌山大学経済学部観光学科	出口弘先生、喜多一先生
桐畑 哲也	Kirihata Tetsuya	606-8501	京都市左京区吉田本町(旧工学部 4 号館 3F)	京都大学経営管理大学院関西経済経営論(関西アーバン銀行)講座	塩沢由典先生

名簿訂正 (訂正事項のみ記載)

草野 昭一	(自宅住所)	526-0021	滋賀県長浜市八幡中山町 143-107 号
逸見 良隆	(送付先)	179-0085	東京都練馬区早宮 1-15-14 TEL03-3994-5612
妹尾 裕彦	(自宅電話)	TEL043-308-8476	
井出 明	(所属先)	192-0397	東京都八王子市南大沢 1-1 首都大学東京大学院 都市環境科学研究科 地理環境科学専攻 観光科学専修
鈴木 啓史	(種別)		個人会員→学生会員
	(所属先)		大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程
深瀬 澄	(自宅住所)	582-0026	柏原市旭ヶ丘 1 丁目 4-7
大山 明男	(送付先)	357-8555	埼玉県飯能市阿須 698 駿河台大学経済学部
	(自宅住所)	359-1142	埼玉県所沢市上新井 735-1-102
田原 慎二	(自宅住所)	243-0813	神奈川県厚木市妻田東 1-13-22-305 TEL080-5002-1930
長谷川 真理子	(所属先)	240-0193	三浦郡葉山町(湘南国際村) 総合研究大学院大学 先導科学研究科
在間 敬子	(所属先)	603-8555	京都市北区上加茂本山 TEL075-705-1975 FAX075-705-1495 zaima@cc.kyoto-su.ac.jp 京都産業大学経営学部
石倉 雅男	(所属先)	186-8601	東京都国立市中 2-1 TEL 042-580-8594 一橋大学経済学部
富澤 拓志	(種別)		学生会員→個人会員
	(所属先)		鹿児島国際大学経済学部地域創生学科
鄭 孝鋒	(所属先)	116023	中国大連市高新園区高新街 5 号 DELL 計算機有限公司 日本営業部(李京愛 様 気付)
住沢 博紀	(自宅住所)	338-0001	さいたま市中央区上落合 2-4-5-1101

ここに前年度分の収支決算報告を挿入して下さい。

編集後記

今回は依頼原稿の到着が大幅に遅れるなど、大変つらい状況でした。ニューズレターの編集は皆様の協力によって成り立っております。引き受けて頂いた原稿はなるべく期限を守ってお出し頂くようお願い致します(もちろん私もきちんと期限を守った発行を心懸けたいと思います)。

皆さんはご存じかと思いますが、日本経済学会でポスター発表が導入されるようになります。しかし、書類を読んだ限りでは様々な点で齟齬が生じる導入方式かと思われます。我々進化経済学会はポスター発表について長い伝統を持っています。しかし、ポスター発表が口頭報告の合間にしかなされない現状は、ポスター発表の良さを半減させているのではないかと思います。今一度、ポスター発表を活性化させ、濃密な議論が出来る場として「再生」させる必要があるのではないのでしょうか。

さて、秋も深まり、この号が到着する頃には季節も冬になっていることでしょう。来年も皆様にとって良い年でありますように。

ニューズレター編集担当：小川一仁（大阪産業大学）